

パンタナル通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2015年4月1日 139号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



レダ農場のタロイモ水耕栽培。水面で茶色に見える浮き草が、マルチングと同様の効果を発揮している。（2015年2月撮影）



他種の浮き草を用いて、その効果を比較研究中。

タロイモ水耕栽培に新手法―増産への希望

レダ農場では昨年、タロイモの水耕栽培が、新しい段階を迎えている。タロイモの根茎は、順調に育つと直径20〜30 cm程に肥大し、豊富な各種の栄養分を含有して、質・量共に収穫の豊かさをもたらす。貧困地域の食糧問題をどう克服するかは課題に光明を差すものと言える。

当初は畑地で栽培したが、チャコ地方特有の塩分を多く含んだ粘土質の土壌では栽培が困難で、どうしてもこの問題を克服できるか、さまざまに試行錯誤しながら、水耕栽培をすることになった。

水耕栽培は、雑草が育ちにくい、害虫による被害が少ないなどの利点があった。しかしある時期、大型のタニシが一斉に大繁殖して茎を食害してしまうという難問に直面。これに対して、現地に自生する小型の浮き草で水面を覆うことを試みた。すると、ハダニのような害虫が、浮き草に集中して、おとり作物の効果を発揮、タロイモが守られ、かつ直射日光が水中に入らないため、40℃を超える気温にも拘らず、水温が安定し、水の蒸発も防ぎ、タニシの繁殖も防ぐという、マルチングと同様の効果があった。芋も畑作とほとんど変わらない大きさに成長している。

こうしたレダ独特の浮き草を活用した水耕栽培による工夫努力は、中田所長を中心とする現地スタッフの真摯な取り組みから生まれたアイディアの賜物である。プロジェクト発足以来の難問を克服し、さらなる大規模栽培に向けて希望の農場になりつつある。（飯野記）



硬い木の杭を打ち、ワイヤーを張る作業員たち。先住民でなければ耐えられない。

今レダ基地では

境界線フェンスの設置工事

南米大陸における私たちの土地は、地図上で境界線が引かれているだけでは不十分で、物理的な境界フェンスを設置しなくてはなりません。

パンタナール湿原での作業には種々の困難がありますが、境界線の大部分は、道路が通じていないので、現場に到達するだけでも危険を伴います。車が使えないので、ボートや馬を使って行くことになりますが、荒野の湿原では馬も人も、しばしば難儀します。

私たちの土地は、東面20Kmにはパラグアイ川が流れて、天然のフェンスになっています。南面40Kmは隣接する牧場がすでにフェンスを設置済み。現在、北面40Kmが工事中です。過酷な環境下で野営しながら、先住民の作業員たちが逞しく働いています。

堤防建設工事のタイミング

レダ基地では、この夏季（十月頃から三月頃まで）の降雨量が異常に多く、道路や橋に被害が出ています。それ以上に、堤防の建設工事ができないということが問題です。建設業者は川の水位が低く、しかも晴天が続く時季（乾季）を狙っていますが、現地には、乾季＝豊水期、雨季＝渇水期という基本的な気象パターンがあり、重機を使用する工事の適期はかなり限定されています。そして一旦工事が開始されれば、24時間連続の突貫作業になります。一時中断するようなことは許されないのが、強大なパンタナールの大自然における土木作業の鉄則です。ご支援をお寄せくださった方々は、大変ご心配してくださっていることと思いますが、レダ基地のスタッフも真剣に工事のタイミングを計りながら、パクーの養殖、タロイモ栽培ほか、すべての生命を守るため奮闘しています。



パクー稚魚の管理と育成をする養殖池



稚魚の生育状態を点検・記録する

★藤原孝次さん＝レダのフレッシュマン

藤原さんは、アメリカで調理師の資格を持つ料理人。はきはきとした好青年です。現在は40日の釣り修練に没頭しています。レダに来るすべての人は、まずこれに挑戦してもらいます。

質問 レダに来たきっかけは？

答え 一般のレストランで働いていましたが、仕事だけで時間が過ぎていくことに何のためにも働いているのだらうと疑問が生じ、虚無感を覚えしました。そして広島に帰ったとき、レダで数ヶ月すごした増田さんの話を聞く機会があつて、彼女が非常に目を輝かせて体験を語ってくれたことがとても印象に残りました。この安楽な生活環境で、のほほんと暮らしていくのではなく、一度不便な環境、厳しい環境に身をおいてみたいと思いました。

質問 レダに来てみてどのように思いましたか？

答え まだレダに来て短いので多くは語れないのですが、でも毎日釣りをする中に、大自然との一体感を味わうことができ、釣りをしているとても楽しく思います。日差しが強くてとても大変ですが、地球最後の秘境ということを実感でき、釣りをしながら自分の人生を振り返ることができる素晴らしい時を持たせてもらっていることを感謝しています。



レダで釣りの修練に励む藤原さん

充実するアメリカ会員たちの活動

今北米では

アメリカでは、会員（米国NGOとして活動）たちの活動が、充実かつ活発化しています。代表者の奈田氏を中心に、広大な国土を駆け巡りながら、アメリカ社会に積極的な広報活動を展開し、合わせて会員の募集に取り組んでいます。また、レダ基地における堤防建設工事のための募金活動でも、その必要性和実用性を理解し、熱心に協力者を募って、実質的な貢献がなされました。一旦動き出すと爆発的な力を発揮するアメリカ人の性格もあり、希望が持てます。

アメリカの会員たちの特長は、明るく、行動的なこと。また、家族ぐるみで社会貢献活動に携わることを喜びとする、歴史的・精神的伝統が根底にあるとされます。

本年は、日本からだけでなく、北米からも独自に青年奉仕隊の派遣が計画されています。若者たちにメノナイトなど先駆者による開拓の歴



レダプロジェクトへの支援を話し合う米国の会員たち

連載インタビュー (第6回)

Amo Leda!



Q. レダに来られたのはいつですか？

A. 昨年の一ヶ月です。

Q. ここに来ようと思ったきっかけは？

A. 自分の持っている知識や経験を人々のために生かす事ができればと常日ごろから思っていました。これが天が私に与えたその機会であると感じたからです。

Q. どんな知識、経験ですか？

A. 私は育った家が農家で25ヘクタールの

土地を持っていて、綿花、タバコ、ゴマ、オレンジなどの果樹を栽培していました。それを子供のときからずっと手伝っていました。でも、あまり大きな収入には結びつかず、結局すべてを手放してしまいました。

Q. レダに来てどういう風に感じていますか？

A. 自分が大きなことに役立っていることがとても嬉しく感じています。

Q. レダで最も大変と感じることは？

A. 妻が家庭で孤軍奮闘していることです。できれば辞めて帰ってきて欲しいとも言われます。(笑)

ビクトル・ガビラン

Victor Gabilan (37) 4児の父(11、10、7、8ヶ月) ビクトルさんは一年前、植樹プロジェクトのためにレダに来ることになった。当地レダは、首都アスンシオンから900kmの距離、ここで活動してくれる人を探すのは容易ではない。妻と4人の子をアスンシオンにおいて単身赴任。家に2~3ヶ月に一度帰るのみ。彼は毎朝4時に起きて家族のために祈ることを欠いたことがない。植樹プロジェクトといっても大半は雑草取りの地味な仕事。蚊よけの網をかぶりながら黙々と一日中雑草を取り続けている姿は、私たちを感動せしめる。

史とその結実を現場で学習、辺境地の先住民村落での奉仕活動、レダ基地におけるプロジェクトの理念の相続と、美しい大自然を体験するなど、すでに14回実施した日本隊の経験から学んだプログラムを作成しています。実施は七月下旬の予定です。

今、アメリカ人会員と在米日本人会員たちの結束には強いものがあります。レダの現場の苦勞に対し、アメリカ会員たちの協力で新しいトラックを贈呈することになりました。米国からレダ基地を訪問した高橋泰子さんが、廃車寸前のトラックが無理して使われているのを見て、その現実を米国の会員に伝えた結果です。また、パンタナール通信の英訳も試みられています。

北米はアジアと南米の中継地でもあり、交通や物流面などでも地の利があります。南米および日本との連携強化も期待され、世界平和地球村の建設に、また新しい希望が見えてきました。

第六回環境問題研究会のご案内

優れた理念と実績を持つ講師を迎え、環境問題研究会を、左記のように開催いたします。初めての方も、この機会にどうぞご参加ください。

日時 五月十日(日) 13時30分~16時

(13時から受付開始)

講師 陽捷行先生(みなみかつゆき、北里大学名誉教授、公益財団法人農業・環境・健康研究所、農業大学学校長)

講演テーマ 「土壌・人間・環境問題」

場所 川崎市大山街道ふるさと館 会議室

参加費 無料

主催 一般社団法人 南北米福地開発協会
参加申込み、お問い合わせは、当法人事務局まで、FAXまたはメールでご連絡ください。

第三回稚魚放流式典成功のために！！

二〇一二年十二月にパクーの人工孵化が成功し、稚魚の成長を見て、二〇一三年五月に第一回稚魚放流式をフランコ大統領を迎えて行いました。その時、レダ近隣のオリンポ市に稚魚を贈呈し、地域産業の振興のための道も開くことができました。

二〇一四年にも再度、フランコ前大統領夫妻を迎え、成功裏に放流式が行われ、地域産業への道が拓かれるのではと、大きな期待を受けました。

現実に地域の産業化を進めるには国の理解がより一層重要で、第三回パクー放流式は農牧省と協力し、また、貧しい地域の振興に力を注いできたNGO・NPO等との協力で成していければと計画しています。レダで来る五月初旬に行う計画です。

今年はパクーの孵化で稚魚が約二十万匹育つていきますので十萬匹をパラグアイ川に放流し、五萬匹を農牧省がパラグアイ各地で進めている養殖場へ寄付することを計画しております。

国に経済的な基盤が弱く、レダ近隣の辺境の地にも援助をすることができずに今日まで来ています。私たちがレダ近隣への支援、特に学校教育の向上に今まで一四年に亘り支援をして来ました。

今後、教育を受けた子供達が働くことのできる地域産業を育てていくことが重要です。その端緒として、パラグアイ川近郊の村において魚の養殖を推進し、働く場を提供し、生活向上への道を拓いて行きたいと念願しております。

今回の放流式典を通し、政府と主要なNGO・NPOがより関心を持ち、具体的な支援活動を進める良き機会となるはずです。

日本からの支援は、村が自立して生活できる環境を創るまで継続していくことが目的です。

そのため、必ず今回の放流式も成功していきたいと思いますのでよろしくご支援をお願いします。

マグノ教授の経過報告



この放流した魚の15～20%は成魚になり、2年で2キロから3キロの親魚になり、一匹が30万個から50万個の卵を産む。それゆえにここに放つ魚の影響は非常に大きい。放流の場所は支流と本流の出合うところ。支流で成長した魚が本流に出やすい。

ここでの孵化の成功が環境保護と地域経済発展に大きく貢献できる可能性を大きく開いた。地元の養殖産業の発展の道を大きく開くことになった。

来年は10万匹の放流によって、さらに大きく貢献できるように期待している。



第三回放流式典成功のため、皆様の支援を左記の口座へ

南北米福地開発協会 東京事務局

郵便口座番号

記号 一〇一八〇 番号 七七八八〇四七一

一般社団法人 南北米福地開発協会事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

ゆうちょ銀行(旧一般会員会費納入)

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール: office@asd-nsa.jp

ホームページ: <http://www.asd-nsa.jp>

会員種別

♠ 会員一口1000円/月 ※口数は申込者が申告

♠ 特別会員一口1万円/月 ※口数は申込者が申告

♠ 法人会員一口1万円/月 ※口数は申込者が申告

会費は、毎月の引き落とし方式です。

会費振替用口座 ゆうちょ銀行 00290-5-113072

加入者名: シャ) 南北米福地開発協会

入会申し込みと同時に手続きをお願い申し上げます。それが確認でき次第、会員番号を確定し、ご案内いたします。

♥ 入会申込書は、左記の事務局にお申し込みください。

また、ホームページからもダウンロードできます。

PDF形式 <http://www.asd-nsa.jp/nyuukai.pdf>

Word形式 <http://www.asd-nsa.jp/nyuukai.docx>